平成25年第15回県教育委員会会議
報　告　事　項　（5）

生涯学習振興課

1　報告事項

「沖縄県児童生徒の生活実態調査」結果報告

2　事項の説明

(1)調査の目的

本調査は、沖縄県立および各市町村立小・中学校における児童生徒の生活実態や傾向を把握することで現状と課題を明らかにし、その調査結果をもとに、学校・家庭・地域の教育力向上を目的とする施策に反映させるための基礎資料として活用する。

(2)調査の実施概要

①調査対象：県内の小学校５年生、中学校２年生、及びその保護者

②調査方法：各学校へ調査票を郵送し、学級ごとに配布・回収を行い、学校ごとに郵送にて回収した(保護者は児童生徒を通して配布回収した)。

③調査期間：平成25年７月５日～平成25年9月18日

(3)調査の配布数、有効回収数など

	児童・生徒			保護者		
	配布数	有効回収数	回収率	配布数	有効回収数	回収率
小学５年生	15,955	13,927	87.3%	15,955	12,633	73.2%
中学２年生	15,767	12,765	81.0%	15,767	10,502	61.9%

(4)調査の結果概要

①朝食摂取、睡眠、読書時間、テレビ等の視聴時間等の基本的な生活習慣と学力の相関関係が改めて明らかになった。

②テレビの視聴時間や携帯電話、スマートフォンの使い方の取り決め等、家庭教育やしつけが学力や体力の向上に寄与している。

(5)その他

○市町村立小中学校、市町村教育委員会に１部ずつ配布。

○報告書は、沖縄県教育委員会ホームページから閲覧可能。

(http://www.pref.okinawa.jp/edu/shogaigakushu/shogai/kate/seikatsu_jittai.html)

沖縄県児童生徒の生活実態調査の結果報告、考察概要　　【別紙】

【西本裕輝准教授】
①朝食の質
　朝食を「主食＋2品以上」食べていると、学力が高く、学習時間が長い。
②部活動の適切なあり方
　過剰な部活動は、学力、学習時間にマイナスの影響がある。
　(小は休日の活動時間、中は週当たりの活動日数)
③保護者が夜更かしだと、子も夜更かしである。
④「子連れで居酒屋」の慣習は、生活リズムが乱される可能性がある。
⑤登校時の送迎率が、小で２６％、中で３４％である。
⑥保護者と児童生徒の回答のずれ
　保護者が、児童生徒の状態を正確に把握できていない可能性がある。

【笹澤吉明准教授】
①睡眠
　○保護者が児童生徒の睡眠行動を把握できていない。
　○睡眠は学力向上に寄与する。
　○夕食時間は午後9時までに済ませる。(夕食摂取時刻は、学力向上に重要)
　○母親の帰宅時間にも関係がある。
②家庭教育、しつけ
　○テレビの視聴時間の取り決め等の家庭教育、しつけは学力、体力の向上に大きく寄与している可能性がある。
③読書時間
　○学力面で、読書時間の寄与が学習時間の寄与より大きい。
④朝食摂取は、学力に大きく寄与する。
⑤メディアの視聴時間の少なさは、学力に大きく寄与する。

【玉城きみ子准教授】
①放課後の活動(居場所づくり)
　○家庭学習時間の短さ、部活動時間の長さは、睡眠時間との関わりもある。
　○部活動のあり方、放課後の居場所づくりが必要である。
②家庭学習の習慣化
(保護者)
　○子の生活態度や学力に関心を持つ。
　○保護者の学ぶ姿勢(読書等)を見せる。
　○夕食時の会話などからコミュニケーション力を育み、自尊感情を高める。
　○テレビ等の時間の制限など家庭学習の習慣化を図る環境をつくる。
(学校)
　○家庭学習について、教師と保護者が話し合いや意見交換をし、お互いに理解し合う。
　○主体的に学べるよう課題の出し方、内容を工夫する。
③読書の習慣化を図る。
④家庭での約束事を決める。